

## 巡視船艇整備事業 評価書

平成26年度		新規事業採択時評価			
事業名(箇所名)	小型巡視艇(CL型)2隻建造	担当課	船舶課	事業主体	国土交通省 海上保安庁
		担当課長名	山崎 壽久		
事業内容	小型巡視艇(CL型)2隻の建造及び就役				
配備管区及び主な活動海域	調整中				
整備期間	開始	平成27年度	完了	平成27年度	
総事業費(億円)	約9億円				
運用開始年度	平成28年度				
耐用年数	20年				
本事業に関連する事業	老朽巡視艇の解役				
政策(施策)目標	政策目標:安全で安心できる交通安全の確保、治安・生活安全の確保 施策目標:船舶交通の安全と海上の治安を確保する				
事業の効果分析					
(1)必要性・緊急性	<p>①CL型巡視艇整備の必要性 (1)小型巡視艇(CL型)(以下「CL型巡視艇」という)は、小回りの利く機動性を活かし、港内及びその周辺海域において、海難救助等の各種事案が発生した際に即応するほか、国内密漁事犯、密輸・密航事犯等の海上犯罪の監視・取締りや石油コンビナート等重要警備対象施設へのテロ対策としての巡視警戒など、警備救難業務を遂行する最小ユニットとして、業務需要の高い港に優先的に配置している。これらの業務を行うため、高速性能、夜間監視能力等の能力を強化したCL型巡視艇を整備する必要がある。</p> <p>(2)安全保障法制の整備等に関する閣議決定を踏まえ、我が国周辺海域における不法行為、不審事象を早期に発見し、迅速かつ機動的に対応し、領海警備に係る体制を強化する必要がある。</p> <p>②CL型巡視艇整備の緊急性 CL型巡視艇の一部は、建造から20年以上が経過しているため、船体全体の強度低下が生じ、運航の安全性が著しく低下しているほか、船底破口や主機関等の故障が頻発し、稼働率の低下に至るなど、業務に支障が生じている状況にある。</p>				
(2)事業の効果	<p>本事業でCL型巡視艇を整備することにより、期待される業務上の効果は以下のとおり。</p> <p>① 速力の向上により、現場進出時間の短縮や高速で逃走する容疑船舶の追尾捕捉が可能となる。</p> <p>② 夜間搜索監視能力の向上により、昼夜を問わない確実な監視活動、不法行為、不審事象の早期発見、行方不明者の搜索活動が可能となる。</p>				
(3)主たる効果の抽出	<p>整備しようとするCL型巡視艇は、海上保安業務の遂行に必要な運動性能、監視探証能力等を有していることから、港及び周辺海域における治安の確保、海難救助等の事案対応体制の強化を図ることができる。</p>				
事業の総合評価 (第三者(外部有識者)委員会の意見等)	船舶建造等整備事業評価委員会(第三者委員会)の事業採択についての判断 事業内容及び評価結果が適当であると判断された。				

【CL型巡視艇】



【CL型巡視艇の老朽化状況】

